

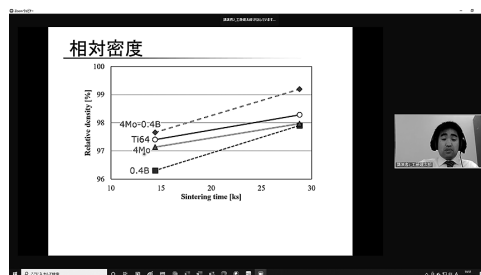
本会記事

2021 年度春季大会報告

2021 年度春季大会は、6 月 1 日（火）～3 日（木）の 3 日間、オンラインにて開催しました。講演発表件数は、受賞記念講演 7 件、特別講演 5 件、招待講演 5 件、一般講演 86 件の合計 103 件、3 日間の参加者数は 300 名程度でした。

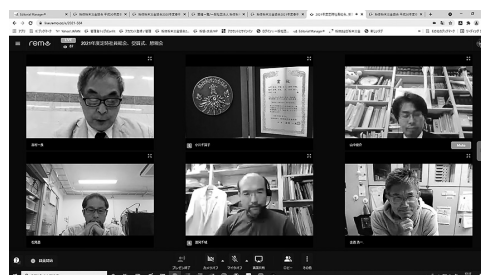
2019 年末に初めて報告された、「COVID-19 = コロナ」は、こんなにも長く、全世界を巻き込んで流行するとは想像していませんでした。ほんの少しの間、全世界の人たちが辛抱すれば、元の生活に戻れると誰もが思っていたことでしょうか。初めての報告から 1 年 6 ヶ月、未だに収束しない状況に、新しいウィルスとどのように付き合っていくのがよいのかを模索し、この状況下でも、前に進んで行くことを人が試されているのではないかと思わずにはいられません。

当協会 2020 年度春季大会は中止となりましたが、2020 年秋に引き続き 2021 年春季大会は、オンラインで開催し、ライブ配信による講演 9 件、オンデマンド動画配信による講演 94 件が行われました。ライブ配信による講演は、4 つの講演特集を 3 日に分けて行いました。ライブ配信での発表は初めての試みであり、事務局は多少の不安もありましたが、発表者、座長の皆さんは、ライブ配信の講演に慣れておられ、無事終了することができました。改めて感謝申し上げます。ライブ配信の講演は、最大 85 名、平均 50 名の聴講者がありましたが、その他、「各種粉末の焼結技術および焼結機構の新たな展開」と「磁性材料・磁気デバイスにおける微細構造制御と機能発現」の講演特集では、ライブ配信の講演終了後、オンデマンド動画で発表された方に対する質疑応答時間を持ちました。事務局の案内が不十分で、参加されていない発表者の方もいましたが、PPT の資料を表示するなど、活発な質疑応答が行われました。（写真 1）



オンデマンド動画配信による講演は、今回資料提出を大会開催 5 日前とぎりぎり設定し、少しでも新しいデータを入れて発表して頂けるようにしました。個々の再生回数はわかりませんが、Web 上での質疑応答もコメント機能を利用して活発に行われました。

Zoom での講演終了後、Remo Conference に切り替えて、定時社員総会、受賞式を 16 時半から 120 名程の方にご参加頂き、執り行いました。事務局のカメラで賞牌、受賞者、会長を映し出し、賞牌を授与するという形式で開催しましたが、オンラインの接続が上手くいかず、30 分程タイムオーバーしてしまいましたが、Web を通しての受賞式を行い、受賞者の方々を参加者皆様にご紹介する機会を作れたと思っています。（写真 2）



受賞式終了後予定より 50 分遅れで懇親会を開催しました。島川祐一実行委員長の開会の辞、吉村一良会長のご挨拶まではスムーズに進んだのですが、受賞者を代表して研究功績賞受賞者の北本仁孝先生のご挨拶が上手く繋がらず、急遽先に司会の加藤将樹先生に乾杯のご発声頂き、歓談に入りました。懇親会は約 40 名の方にご参加頂き、再度北本先生にご挨拶をお願いし、続いて恒例となった出席の学生さんに自己紹介を頂きました。途中、テーブルを移動し、個々に大会で会える方たちとの交流を楽しんで下さっているようでした。

2021 年度秋季大会は、今回対面会場予定であった京都大学宇治キャンパスで 11 月 9 日（火）～11 日（木）に開催を予定しています。出来れば現地開催をしたいと願っておりますが、コロナの状況を見据えながら検討したいと思います。

講演募集の案内をご覧頂き、沢山の方のご発表、ご参加をお待ちしております。（吉田 泰子）